

タンザニア視察から
アフリカの農業機械化
終

アフィカットの活動

チュニジアで8月27、

28の両日、TICAD8（第8回アフリカ開発会議）が開かれた。TICADは我が国政府が主導し、アフリカの開発を後押しする国際会議である。この席上、岸田首相は、1・3億人の食料支援など官民総額300億ドル規模の資金の投入を表明した。これまでもアフリカ諸国に対して様々な支援を行ってきたが、それをさらに強化するとの方針が示された。そして、農業への支援はさらに重みを増している。

前回、2019年の第7回アフリカ開発会議では「アフリカ農業イノベーション・プラットフォーム構想」が提唱された。その促進のための具体策として「日・アフリカ農業イノベーション・プラットフォーム構想」が提唱された。国際協力機構（JICA）は現在、

企業と連携しアフリカ農業を機械化

2024年2月までを情報収集・確認調査期間とし、タンザニア、ケニア、コートジボワール、ガーナ、ナイジェリアを対象にパイロット事業を行っており、その知見を基に中長期的なアフィカット

の役割、活動計画を提案する。今回のタンザニア視察もその一環で行われた。

アフィカットは、我が国企業の製品や技術の導入を促進することでアフリカの農業生産性向上、農産物の品質向上、農民の生活・地位向上に資することを目指し、官民が連携して対応する。米に関連する農機を中心として、①広域アドライブ②展示・実証、デモンストレーション③ビジネスモデル/バリエーションの実証④イノベーションラボ⑤広報⑥人材育成—を行っていく。アフィカットの調査事業をJICAから受託し実施している㈱かいはつマネジメント・コンサルティングでは、「AFICATニュースレター」で、現地の活動状況を報告しており、153号では、本田技研工業㈱、㈱ケット科学研究所の現地活動などが紹介されている。

タンザニアでは、本田技研工業がアフィカットの活動の中心となるキリマンジャロ農業研修センター（KATC）で農家を集めて耕うん機の実演を行っている。また、ケット科学研究所は、製品をタンザニアに送り、オンラインで水分計などを紹介。その成果について8月に開かれたJiPFA第2回アフリカ農業分科会で報告があり、本田技研工業、ケット科学研究所からアフィカットの支援が市場開拓に有効であることが述べられた。アフィカットは、それまでの農機支援で欠けていたビジネスの視点を、企業と連携することで解決し、一層の市場開拓を目指す。我が国の優れた技術をアフリカの農業・農業機械化に役立てていく取り組みである。これに多くの関係企業が参加していくことを期待して、レポートを終了したい。

最後に、現地の写真提供、資料等でアフィカットの調査メンバーにお世話になったこと、途中、足を痛めて種々支援をいただいたことを感謝、御礼いたします。

（速騰記者・終わり）



タンザニアの農業祭「ナネナネ」で日本製品の紹介をしたアフィカットのブース（調査メンバー提供）④と、⑥はAFICATニュースレター